

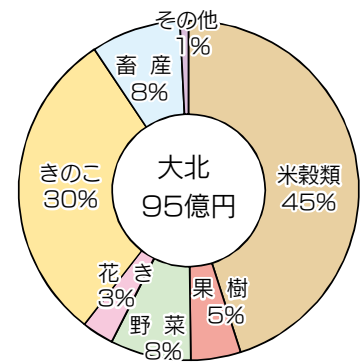
### ～北アルプス山麓の恵みを活かした農業農村の振興～

#### 地域農業・農村の概要

##### ■ 農業・農村の特色 ■

- 大北地域の総農家数は4,635戸で、販売農家の経営耕地面積3,939haのうち、水田が全体の88%を占めています。
- 農産物産出額（H22：95億円）に占める米の割合は県平均の16%に比べ44%と高く、夏は冷涼で、気温の日較差が大きい気象条件や北アルプスからの豊かな水を活かし、水稻を中心とした農業経営が営まれています。
- 米以外では「そば」、「りんご」など、地域の立地条件を活かした農業が展開されていますが、農業従事者の高齢化や農畜産物価格の低迷により、農業産出額は減少傾向にあります。
- このため、特色ある米づくりの推進や新たな地域特産物の生産拡大により、農家所得の向上につながる農業生産構造を構築していくことが必要です。
- これまで、大北地域の優れた農畜産物、加工品等を北アルプス山麓ブランドとして認定し、県内外に広く情報発信してきました。
- 年間700万人を超える観光客を有する当地域において、今後は、この北アルプス山麓ブランドの活用と新たな地域特産物の生産振興をより一層推進し、農業振興のみならず、観光との連携等による地域産業の振興を図ることが必要です。

平成22年度  
農産物産出額の割合  
(地方事務所推計)



##### ■ めざす将来ビジョン ■

- 人・農地プランに基づき、意欲ある農業者や集落営農組織、新規参入企業への農地の集積が進み、新たな品目の導入やコスト削減により収益性が高く競争力の強い農業経営体が地域農業の担い手として生き生きと活躍しています。
- 女性農業者及び1ターン者、定年帰農者など多様な担い手の確保育成が図られ、農産物の直売や加工等に取り組む起業組織が活発に活動しています。
- 水稻を中心に環境にやさしい農産物の生産など、豊かな自然環境との共生による持続可能な農業経営が展開されています。
- 北アルプス山麓の恵みを受けて育った農産物やその加工品の販売が拡大するとともに、水稻プラスαとしての園芸作物等の生産が拡大し、収益性の高い農業が展開されています。また、農業法人や農村女性起業組織等が、自ら生産・加工・販売を行う6次産業化により魅力ある農業ビジネスが展開されています。
- 観光産業等との連携により、田園風景や地域の農業・農村資源を活かした農業体験やワイナリーを巡る体験ツアーなどが活発に行われ、宿泊施設では地元農産物が積極的に利用されています。
- 集落ぐるみで農地や地域を守る協働活動が行われているほか、新たな農村コミュニティの形成により農村の活性化が図られています。



## 重点的な取組方向

### 重点戦略1 地域農業を支える経営体の育成

大北地域は、多くの集落営農組織が設立されているものの、地域の合意に基づいた組織運営は今後の課題となっています。また、高齢化等による地域農業の疲弊が憂慮される中、集落営農組織や経営管理能力を有する経営体の育成が課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 農業経営の法人化数	22 組織	27 組織
<input type="checkbox"/> 40歳未満の新規就農者数（単年度）	5人	6人
<input type="checkbox"/> 担い手への農地の集積面積	2,949ha	3,800ha



#### 推進方策

- 人・農地プランの策定支援とその実践を通じた農業生産法人、新規就農者等、地域農業を支える担い手の育成
- 水田中心の地域特性をふまえ、分散水田の集約・規模拡大によるコスト低減等に向け、農地中間管理事業等を活用した農地利用集積の加速
- 農業者の負担軽減を図る基盤整備事業の実施による担い手への農地利用集積の促進
- 集落営農組織の法人化及び水稲プラスα（園芸作物）等経営発展に向けた支援
- 高い技術と経営管理能力を有する経営体の育成
- 定年帰農者や女性農業者等が活躍できる体制づくり
- 他産業から農業参入を希望する企業に対する相談活動の実施



【集落懇談会】

### 重点戦略2 付加価値の高い水田農業の推進

大北地域は、清涼な気候、北アルプスの豊かな水を活かした古くからの水稲地帯です。しかし、米価が下落傾向にある中、特色のある米づくりの推進や品質の高いそば・大豆・小麦等の土地利用型作物の生産が課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 水稲直播栽培面積	7.5ha	10ha
<input type="checkbox"/> 大豆の優良品種の栽培面積	0ha	100ha
<input type="checkbox"/> 信州の環境にやさしい農産物認証面積	67ha	80ha



#### 推進方策

- 環境に配慮した安全・安心な売れる米づくり（ブランド化の推進、温暖化・大規模化に応じた品種構成）への対応
- 水稲直播等による低コスト省力稲作技術の導入と最適な経営管理の推進
- 酒造等事業者ニーズに着実に応える米契約栽培の拡大
- “大北の風土や心意気”を大切にしたい付加価値の高い米栽培とブランド等を生かした多様なマーケティングの促進
- そば、大豆、小麦等の生産安定技術の導入
- 実需者の評価を踏まえた大豆の優良品種への切り替え
- 耕畜連携による自給飼料（稲発酵粗飼料用稲等）の増産
- 南部地区の園芸振興に必要な堆肥供給体制の確立
- 信州の環境にやさしい農産物認証制度を活用した環境と調和のとれた農産物の生産
- 黒豆等、地域の農業生産拡大につながる品目の生産振興



【特色ある稲づくり】

### 重点戦略3 立地条件を活かした園芸産地づくり

米価が下落傾向にある中、水稻プラスαとして園芸作物の生産振興を図り、収益性の高い産地づくりが課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□りんご新しい化栽培面積	4ha	20ha
□りんごオリジナル品種栽培面積	21ha	30ha
□アスパラガス栽培面積	21ha	31ha

#### 推進方策

- フェザー苗の生産とりんご新しい化栽培の拡大
- 更新期を迎えた園地におけるりんごオリジナル品種の導入
- アスパラガスの施設化による単収・品質向上等と水稻補完品目としての新規栽培者の掘り起こし
- 集落営農組織等を中心とした実需要望の高い野菜の導入や加工・業務用野菜の契約取引の推進、地場流通野菜の生産拡大
- リンドウの新規栽培者確保とカーネーション等の出荷平準化による価格の維持
- ワイン用ぶどうの栽培拡大と高品質化、ワイナリーを活用した観光と農業の振興
- 中山間地域における山菜やベリー類、食用ほおずき等の軽量品目の導入と普及
- 米中心から園芸作物へシフトする経営体への支援



【北アルプス山麓に広がるワイン用ぶどう】

### 重点戦略4 北アルプス山麓ブランド等の地域振興への活用

北アルプス山麓の豊かな自然と清冽な水・空気に育まれた農産物を活用した特産品づくりや観光業と結びついた販売促進を図り、農業はもとより地域産業の活性化を推進することが課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□北アルプス山麓ブランド認定品数	67品	100品
□六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	11件

#### 推進方策

- 北アルプス山麓の立地条件や地域の特色を活かした収益性のある新たな地域特産物（陸わさび等）の掘り起こし
- 北アルプス山麓の恵みを受けて生産された北アルプス山麓ブランド認定品や農産物のPRと情報発信
- 地域銘柄豚のPR（SPF豚、黒豚、小谷野豚）
- 他産業との連携や付加価値の高い農業生産に取り組む経営体の6次産業化に向けた支援と消費者の視点に立った商品開発
- 北アルプス山麓ブランドにつながる新たな地域資源の発掘
- 農業・農村資源を観光者の誘客に活用するなど、観光と連携した農業の振興
- 農産物等の輸出に意欲のある事業者への支援



【林間で育つ陸わさび】



### 重点戦略5 農業・農村資源を活かした地域振興

自然の豊かさや農業・農村地域の文化・伝統等の資源を活かして地域の活性化を図るため、地域の魅力発信や都市との交流活動、地場産品を供給できる体制づくり等を進めることが課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 農家民宿数	43戸	80戸
<input type="checkbox"/> 都市農村交流人口	22,515人	25,000人
<input type="checkbox"/> 農業用水を活用した小水力発電の容量	142kW	300kW

#### 推進方策

- 特徴ある食材や豊かな地域資源を活かす農業と観光産業等の多種多様な連携
- 地域の風土や食材を活かした農家民宿や農業体験等を提供できる農家の育成
- 地元農産物の学校給食、宿泊施設等への供給量の拡大に向けた体制づくり
- 農産物直売所等の運営能力向上や施設整備への支援
- 児童・一般消費者への農業体験プログラムの提供による食に対する関心と理解の醸成
- 農業用水を活用した小水力発電による自然エネルギーの利用促進
- 生乳の地域内流通体制の構築



【棚田オーナーによる田植え】

### 重点戦略6 協働活動による農村の活性化

人口の減少や高齢化で、集落機能の維持が困難になることが懸念されています。また、農業生産基盤の維持や鳥獣被害対策を地域ぐるみで行うことが課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 協働活動（多面的機能支払事業、中山間地域農業直接支払事業）による農地等保全面積	1,400ha	3,740ha
<input type="checkbox"/> 野生鳥獣侵入防止柵の設置延長	9km	100km

#### 推進方策

- 農業・農村の多面的機能を支える共同活動、農地・水路等の保全活動への支援や、集落コミュニティ活動の強化による農村の活性化
- 集落ぐるみで行う、野生鳥獣侵入防止柵の設置や追い払い活動、緩衝帯整備、捕獲活動の実践
- 老朽化した農業用水利施設等の計画的な維持・更新の推進、災害を誘発する恐れのある山腹水路の補修・改修
- 耕作放棄地を活用した集落ぐるみによる特色ある地域振興作物（ひまわり等）の栽培支援



【協働活動による農道補修】